

ラフィの比較検討を行った。のう胞では<sup>201</sup>Tlの集積は認められなかったが、腺腫や腺癌でも同様のシンチグラムを呈するものがあり、シンチグラムのみからは三者の鑑別は困難であった。悪性腫瘍の87%、腺腫の74%で<sup>201</sup>Tlの集積がみられ、集積の有無のみでは良性悪性の鑑別は困難であったが、25分像においては、5分像と比較して悪性腫瘍の73%に排泄遅延を認めたのに対し、腺腫においては4%に認められたのみであり、25分像(short delayed scan)は、良性・悪性の鑑別に有用と思われる。

### 32. 甲状腺髄様癌および副腎褐色細胞腫における<sup>131</sup>I-MIBG シンチグラフィ

曾根 照喜	福永 仁夫	大塚 信昭	
永井 清久	村中 明	古川 高子	
柳元 真一	友光 達志	森田 陸司	
			(川崎医大・核)
梶原 康正	西下 創一		(同・放)
原田 種一			(同・内分泌外)
田中 啓幹			(同・泌)

臨床的に褐色細胞腫が疑われた症例5例、甲状腺髄様癌の術後2例、悪性胸腺腫1例に対して、<sup>131</sup>I-MIBG シンチグラフィを施行しその有用性を検討した。

陽性例は、左副腎単発の良性褐色細胞腫1例と、髄様癌の局所再発巣、肝および骨転移巣に集積した症例の2例だった。褐色細胞腫が疑われた症例のうち陰性例は、精査の結果本態性高血圧症3例、副腎皮質癌1例と診断された。髄様癌の残り1例は、calcitonin, CEAの軽度上昇が認められたものの、他の手段にても再発病巣は検

出されなかった。また、悪性胸腺腫は、APUDomaの1つとして腫瘍部への取り込みを期待したが有意な集積は認められなかった。

<sup>131</sup>I-MIBGは、褐色細胞腫の局在診断上非常に有効な放射性医薬品であり、また、それ以外にも種々のAPUD系腫瘍への集積が報告されており、それらの治療を考える上でも興味深いものと思われる。

### 33. Non-functioning parathyroid Cyst のシンチグラム：特徴的な集積像について

福永 仁夫	大塚 信昭	曾根 照喜
永井 清久	村中 明	古川 高子
柳本 真一	友光 達志	森田 陸司
		(川崎医大・核)
原田 種一		(同・内分泌外)

3例の non-functioning parathyroid cyst の症例に<sup>99m</sup>TcO<sub>4</sub><sup>-</sup>による甲状腺シンチを施行したところ、特徴的な集積像が得られたので報告する。患者は全例女性(47~63歳)で、前頸部の腫脹を主訴として来院。血中Ca, T<sub>3</sub>, T<sub>4</sub>, TSH濃度は正常。<sup>99m</sup>TcO<sub>4</sub>によるシンチでは、甲状腺左葉は上方にstretchされ、左葉下極の下外方にcold areaを認めた。Echoはcystic lesionを示した。穿刺液中のPTH濃度は高値を示し、術前にparathyroid cystと診断された。左下副甲状腺にcystが多く発生することより、シンチ上、特徴的な集積像が得られ、核医学検査がその診断に有用な手段であることが示された。